

# 学校関係者評価報告書

第5回評価会議 平成30年5月15日（火） 16:00～

NO	内外	氏名	所属	備考
1	外部	本林 久美	特別養護老人ホームやまびこの里	施設長
2	外部	伊坪 和保	介護老人保健施設のむぎ	事務長
3	外部	岡江 真一	信州大学病院 医療支援課	課長補佐
4	外部	北原 宏樹	松南病院	ソーシャルワーカー、当校卒業生
5	内部	清水 強	学校法人未来学舎 松本医療福祉専門学校	校長
6	内部	百瀬 由久	学校法人未来学舎 松本医療福祉専門学校	副校長

## 会議内容

- ① 理事長挨拶
- ② 学習成果概要説明、質疑、意見
- ③ 学校評価概要説明、質疑、意見
- ④ その他
- ⑤ 学校長挨拶

## 各評価委員からの意見・指導等

- ・ 高校においても介護福祉士の資格取得が可能のため、多くの学生が実習に来ているが高校生の段階では「高齢者の思いを感じ取る」ということは中々難しいのではと考える。養成校の良い点を積極的に周知してほしいと思う。
- ・ 現場において根拠に基づいた支援が実施できるような学習を積極的に行ってほしい。（知識・技術が方法として連動していかない傾向がある）
- ・ キャリアパスなど、フォロー体制を整え、就労しやすく、やりがいのある職場づくりを務めている。介護福祉士会を活用したりすることで、さまざまな情報を得て、キャリアアップにつなげたら良いと考える。
- ・ 世の中の流れ的に、留学生の受入は必要であるとは思いますが、現行の現場で働く姿は、まだまだ見かけない。留学生、学校、現場のすべてがウィンになり流れがスムーズに行くようコミュニケーションの指導や仕事に真摯に向き合うよう指導を徹底してほしい。
- ・ 学生が将来に渡って、その業界で働くことができるよう、キャリアアップを支援する学校の体制があっても良いのではと考える。
- ・ 働きながら、専門学校へ通いたいというような学生も（需要が沢山あるとは考えないが）吸収できるような教育課程、体制を考えてみてもよいかもしれない。
- ・ 超高齢化社会を見据え、介護・医療人材の質、量の育成を引き続き実践して行ってほしい。

- 学生一人ひとりの個性を伸ばすような教育を望む。
- 昨年よりは全体的に評価が上がっている点を含め、個々の点にも学校の努力の跡が見られると考える。中には実行の難しい点もあるとは思いますが、評価の低い点については、少しでも学生利益につながるよう継続的な取組を望む。
- 専門学校に限らず、事業や業務に対し自己点検・評価し改善していくことは、大変重要だと思う。特に、地域社会との連携施設や教育・研究活動機関などでは、激変する時代の変化に迅速に対応していかなければならず、その役割が重要視されるものだと考える。
- 評価した結果も大切だが、どのように改善していくか、どのように維持していくかの考え、実行していく組織作りとプロセスが大切になってくると考える。
- 各職員とも十分自己研鑽していると思われるが、組織として研修制度体制を確立していくことが重要である。
- 教育理念・目標についても時代の変化に合わせ、定期的な見直しと設定が必要である。
- ツイッター、フェイスブックなどのSNSに対する職員の関わり方に対する指針を規定するなどする中で、それらを学生にも指導して行ってほしい。
- 就職後の卒業生の対人関係についてはフォローの必要性を感じる場合があるので、職場と学校で協力し合うなどして対応体制がとれたらと思う。